

《絵姿女房譚》と中国の類話

“A Portrait of the Bride” and Similar Tales in China

千野明日香

①はじめに

②難題型異類婚姻譚について

③百鳥衣故事について

④絵姿モチーフの位置

⑤おわりに

【論文要旨】

絵姿女房譚は、「日本昔話大成」で、「難題型」「桃売り型」の二つのサブタイプに分けられている。絵姿女房譚は、人間の美女が突然夫となる男の前に現れる類話が多い。理由無く美女が現れるので、話の発端が欠落しているかのような印象を与えられる。中国では、異類の女が自分から男の前に現れたり、男が、異類の女を異類と知りつつ妻にしたりする婚姻譚が多い。日本の昔話では、男は妻が異類と知ったときに別離が訪れるので、中国の昔話のような展開はありえない。絵姿女房譚で、人間の美女が突然男のもとを訪れる類話が多いのは、大陸の昔話が日本に伝播したのち、受容に抵抗のある部分だけ欠落したからではないだろうか。絵姿女房譚の話型分類上の問題点としては、「難題型」の類話に絵姿モチーフを欠く類話が多く、絵姿女房譚という話型名と一致しない点が挙げられる。中国では、9世紀頃に「難題型」と対応する「吳堪」(『原化記』)が出現する。「吳堪」には絵姿モチーフは見られない。「難題型」が「吳堪」と同系統であるなら、絵姿モチーフは欠落したのではなく、はじめから無かったと考えたほうが自然かもしれない。絵姿モチーフは現在、東欧からロシア、中国等で伝承される昔話に現れる。絵姿女房譚は、中国やこれら隣接地域の伝承が複合して形作られた可能性が高い。